

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700058		
法人名	株式会社 ケアトピック		
事業所名	グループホームきりん		
所在地	岐阜県高山市新宮町791-1		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2192700058-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームきりんでは認知症状の予防・維持に公文学習を継続して取り入れています。地域の交流については地元の運動会などへ出かけています。また月1回の市内観光や外食などお出かけもなっています。今年度は家族様と一緒に夏まつりを行い入居者様と家族様、職員とで交流を深めています。毎日食後には茶碗拭きや朝の洗濯物たたみは入居者様に手伝って頂き、なるべく普段、自宅にいた頃とかわりない生活をしていただけるように支援をしています。グループホームきりんの理念として「ゆっくり・やさしく・自然な笑顔」を掲げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームきりんの理念「ゆっくり、やさしく、自然な笑顔」は職員ひとり一人に浸透し、職員の笑顔が利用者の笑顔につながり、事業所全体が穏やかな空気で包まれているような雰囲気を感じる。周囲にはグループの関係施設が4つあり、災害時や研修など連携体制が確立している。運営推進会議には家族が7~9割は参加され、面会も頻回にある。行事には多くの家族参加があり、またアユ釣りをされる家族からの差し入れて皆で鮎ご飯を食べることができるなど、家族との連携が取れ協力関係が出来ている。これまでの生活の継続として、日常的に戸外に出る支援と併せて月に1回は外出の支援をしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様や地域の進歩・発展に貢献できるように事業所の理念を毎朝申し送り時、職員皆で唱和し共有している。	毎朝申し送りの時皆で理念を唱和することを継続して行っている。そのことにより、利用者のペースに合わせた対応に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、地域の例祭で獅子舞やお神輿が施設へ来たり、運動会などの行事に見学させて頂いている。	中学生には職場体験をしてもらったり、小学校の運動会を見に行くこともある。事業所の夏祭りなどには区長、警察、老人会の方などを招き、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長様など出席をして頂き、交流を図っている。また駐在所のかたに来て頂き高齢者(認知症)のかたの話をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様・御家族様・行政の方に参加して頂き取り組みなど報告しています。職員だけでなく御家族様同士でも交流を持ってもらっています。	運営推進会議には地域の代表者や殆どの家族が参加され、事業所の状況を報告している。終了後は家族間での交流があり、情報交換の場となっている。しかし運営推進会議の活用が十分できていない。	この会議では、地域の方々と連携を保ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるように参加者から意見等をいただき、さらに地域の力にもなれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に来て頂き、取り組みを報告します。また課題などある時はアドバイスなども頂いている。	市の担当者には、運営推進会議の後に質問状を出しアドバイスももらっている。また電話で色々な相談をするなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様、身体拘束は今までしていません。但し、やむえない場合については御家族様と相談をしご理解していただいでから対応していきます。玄関の施錠も日中はしないようにしています。	会社全体で認知症の研修会があり、認知症を理解し思いを汲み取るよう努めている。身体拘束はせず、一緒に散歩に出かけ個別ケアに心掛けている。入居の理由が理解できず帰宅願望の強い人には、文章に書き理解を促すと納得をされ穏やかになられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	喜林グループ全体で認知症研修会を行い参加してきました。虐待についてももう一度確認し細かいことまで学びました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症研修会の内容のなかでも成年後見制度についても学びました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人様・家族様に重要事項説明書について説明しています。家族様の了承も得て契約しています。また後日でもわからないことは相談にのっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時・電話など要望をお聴きし、返答できるよう心掛けている。玄関にはご意見箱を取り付けて手紙でも相談できるよう対応しています。	訪問時に意見を聞いたり、運営推進会議の後で情報交換の場がある。家族の意見で利用者の作品展示物が欲しいと言われ提供したり、家族から鮎の提供があり全員が鮎ご飯を食べるなど協力体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回グループホームの会議を行い、職員の意見・提案を取り入れています。また随時話し合いの機会がもてるようにもしています。	年2回自己チェックシートで個人評価をし、管理者と面談をしている。定例会議には殆どの職員が参加し、意見などいい易い雰囲気がある。職員から、入居時に馴染みの物の持参提案があり、利用者に説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員で役割分担をして各担当を決めています。その仕事を職員が率先していけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社から研修の機会を積極的に確保している。また、自分でいきたい研修にでも参加しやすいような環境を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーの会議・医療連携の勉強会等に参加して情報を交換・交流を図っています。またその情報を職員で共有するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い困っていることや不安なこと・要望がないかなど聞いています。本人が安心して暮らしていけるように職員が寄り添えるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取り調査などで相談をしている。また来所時や電話でも相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師の診断書、ケアマネの意見書、本人・家族よりの要望により必要とされている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段よりされていた仕事(茶碗拭き・洗濯たみ)を日常生活のなかで行なってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との面会時な相談やグループホームでの生活についての話などを行っています。また受診などの外出は御家族に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに親戚や友人の面会があったりと馴染みの方との関係を築いている。	入居時に家族に確認し、馴染みの場所や自宅へ外出時に寄ったり、学校やお寺などを見ることで昔の思い出が途切れないよう支援につとめている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がリビングへ出てきてみんなでテレビをみたり手作業を行ったりしている。温かい天気の良い日には近くの東屋まで行き外気浴を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も困らないように次の入居施設に情報を伝えていきます。家族ともケアマネジャーが相談役となり安心して頂ける関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様と話をしてなるべく意向に沿うようにしている。	利用者に向かいあって話をすることで、思いを聞くことを基本としている。「私を知ってシート」は利用者の嫌なことも含めた思いを職員がその都度把握し共有するために作成し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしを本人様・家族から聞き取り調査をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間など生活記録に記入し、引き継ぐ職員に申し送りを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で入居者様のカンファレンスを行なったり主治医と連携をして課題をだしている。	ケアマネージャーを中心に1か月毎のモニタリングを計画検討に繋げ、ケアの向上を図っている。記録の検討も進め、排泄と水分補給をより詳細に把握することで排泄介助にも活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になることを生活記録などに記入して職員で相談している。またそれについての実践してみる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接している施設のイベントに参加したりその利用者と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周りの東屋へ散歩したり、喜林の畑へ野菜を見に行ったり楽しみと作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調で気になることがあれば家族様と相談をして受診などして頂いている。また定期の毎月の往診をしている。	今までのかかりつけ医を継続している方は2名、受診は家族が対応している。家族からの情報提供は円滑に行われている。協力医の往診は月1回で24時間対応の体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名勤務している。看護師が勤務していないときでも入居者様の気になることがあれば連絡して対応・指示をもらう体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回の往診時には看護師が同席して相談・情報を頂いている。また入院時には医療連携室との連絡をケアマネージャーが密にし、今後の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を御家族様に説明、承諾を頂いている。今まで事例はないが、本人様・家族様の希望にそなえられるよう主治医・看護師・介護職員で協力していく。	看取りの事例はないが、利用時に事業所のできることを説明している。さらに利用者の状況に合わせて家族に説明し思いの調整をしており、納得できる支援を目指そうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網にて家族様・看護師に連絡できるようにしています。事務所にも救急の番号を掲示してあります。また、引き出しには救急隊員にすぐ渡せる書類も保管してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などに使用できる「ランタンやストーブ」を購入しておいてあります。	今年度はまだ定期訓練がされていないが、グループの施設が隣接しているため連携協力体制ができています。およそ3日分は水も食料も確保し、ランタン、ストーブも準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や基本姿勢など毎日唱和して相手の気持ちになれるような言葉かけをしています。	職員が入室する際は一声かけて許可を貰うことを徹底している。トイレ介助ではドアを閉める、入浴時の異性介助については確認を取ってから行うなどプライバシーに配慮している。個人情報についても新聞への写真掲載は事前に許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の自己決定ができるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望を優先してその人のペースで生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などは日頃とは違う洋服を選び外出んでいます。また入浴後の服も一緒に選んで用意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人様の好きなもの聞いて食事を作ります。また食後に下膳も出来る方には台所で運んでもらっています。	朝は手作りで、昼夕は宅配された食材を調理している。胡麻をすったり、おはぎのあんこづけをしたり、準備や後片付けはできる範囲で参加している。また職員も一緒に食べて食事を共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝起床後、水を一杯は飲んでもらっています。朝食時にはも提供して水分補給をすすめています。糖尿病などのかたもみえるため食事の量や塩分なども職員で相談しながら作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにて口腔ケアを実施しています。また義歯の方などは一度本人様に洗ってもらったあと、職員がもう一度洗浄することもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄時間を記入して、そのひとにあった時間にトイレ誘導を行なっています。	記録の改善でより排泄パターンを把握することができ、個別的な対応で支援している。失敗することも多いが、根気良くその人にとっての排泄の自立を目指した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時の水分(水・お茶・牛乳)補給をしてもらっています。特に便秘気味のかたは生活記録をチェックして様子をみます。主治医とも相談しながら薬などの相談も行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入っています。浴室や湯船の温度を本人様の希望になるように話をしながらはいられます。	入浴の時間は職員と1対1で向き合え、話を聞くことができる貴重な時間となっている。気の合った利用者同士の入浴も希望で実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝をしに居室へ戻って休まれます。またリビングでゆっくりしたい方はテレビなども見て楽しめるかたもみえます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬が職員が把握できるようにファイルに綴じてある。また、新しく処方された薬は看護師が送りノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き・廊下のモップかけ・洗濯物たたみなど、その人の出来ることをそのひとのペースで行なってもらっている。レクリエーションや体操など行なって気分転換してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回程度外出(外食)する機会をつくっています。また家族の協力により日帰りや外泊をしてもらうようお願いをしています。	事業所玄関の近くに建てられた東屋に散歩に出かけたり、テラスに出て体操をしたり日常的な外出の工夫をしている。その他、近くにあるスキー場跡や花見、レストランなどへの外出は皆で車で出かけている。家族の協力もあり様々な外出の支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談をして必要なかたについては事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と電話をするときは職員が取り次いで施設内の電話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設から周りの風景もみえて明るく居心地のよい環境となっています。感じる事が出来ます。入居者様と一緒に作った毎月のカレンダーなども貼ってあります。	居間に入ってすぐに見えるのは窓からの外の景色である。金魚、様々な雑誌、カレンダー、折り紙等が暖かみある雰囲気となっている。タウン誌が購読されていて、地域に密着した話題で職員とともに過ごす空間にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や雑誌を読んだり、畳の部屋で寝転がったり、また居間で休みたいかたは自由に帰って休んでもらったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただくようお願いしています。茶碗や湯呑については自宅から自分の物を持ってきていただいて使用しています。	居室には洗面台、トイレがあって機能的な構造である。使い慣れたTV、ソファ、家族の写真や手芸の作品などが置かれ、その人らしく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階建ての平屋です。玄関からまでが一本しかなく見通しがいいです。転倒などのリスクの高いかたにはセンサーマットをひいて対応しています。段差のないバリアフリーの構造となっています。		